

👋 手話サークル研究班 👋

～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」という気持ちを持っていただければと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月。9名のメンバーで発足。

☆2004・2005年9月の神通研集会・第1分科会「サークル」を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2006年4月現在、川崎3、横浜3、県域11 計17名で活動中。

～ 定例会 ～

地域サークルの様子や情報交換等を行っています。

☆4/30 定例会報告

8/27の集会の内容について話し合いました。

今年度は「ろう者・手話への理解について」が主なテーマ。「手話」が全国共通ではない訳は？「手話が趣味」と言われることに対する抵抗感・不快感。「聞こえない」ということへの社会の理解不足等について活発な意見交換が行われました。

2名の見学者の方が新メンバーとして加わって下さいました。

【次回定例会】

5月21(日) 16:00～17:30

「神通研会員拡大学習会」終了後

かながわ県民センター12F・ボランティアコーナー
どなたでもお気軽にご参加下さい。

～ '05年神通研集会 第1分科会報告～

S20～40年頃まで手話は「手まね」という言葉で表され、言語ではないと思われていました。ろう者の基本的人権を主張していくために手話を広めていく運動が広がり、S45年から開始された手話奉仕員養成事業をきっかけに手話が飛躍的に広まりました。

でも、ろう者にとって運転免許取得時の適性検査、文字情報の不足等、まだまだ様々な問題に直面しています。手話を学びながら、地域の仲間としてサークルに出来ることは何か？ろう者が抱えている問題や解決方法を理解し合うことが大切です。

～サークル研究班メンバーのささやき～

サークル研究班に通い始めて一年が経ちました。先輩方の中身のこ～い話をただ聞くだけの日々でしたが、自分たちのサークルの良い所、考えたい所などに気付かせてもらえました。

横浜は遠いけど毎回心にたくさんのおみやげを持って帰ります。

☆H・F☆